



日頃より相双域内の社会教育の発展に多大なる御尽力をいただき、心から感謝申し上げます。今年度もスタートして3ヶ月が過ぎましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な事業が中止となり、思うような活動が展開できない状況下と思います。緊急事態宣言の解除、学校の再開、何より県内からの感染者が一ヶ月出ていない状況の中、まだまだ油断はできないものの、各市町村の事業も動き始めた時期かと思われま。

今年度も、昨年同様、地域・学校・行政が一体となって相双域内の教育力の向上を図るための様々な事業を展開していきます。この『社会教育だより』を通して、域内の社会教育についての情報や各市町村の取組、各種事業の成果や課題を共有し、相双域内の社会教育のさらに発展を目指していきたいと思っておりますので、情報提供等、御協力のほどよろしくお願いいたします。

子どもたちの元気な声・さわやかなあいさつ

学校に子どもたちの元気な声と明るい笑顔が帰ってきました。通常通りの授業が再開され、中学校・高等学校では部活動も再開されたというニュースはうれしいかぎりです。

警察署や地域の方々、保護者の皆様に見守られ、子どもたちは元気いっぱい登校しています。集団登校の小学生や自転車に乗る中学生からの「おはようございます」のあいさつ、当たり前前の光景がもしれませんが、待ちに待ったひとときです。

今後のウイルスの動向、長期間の休み明けの子どもたちの学習や生活等、不安な要素はありますが、地域全体で子どもたちを見守り、健やかな成長を応援していきましょう。



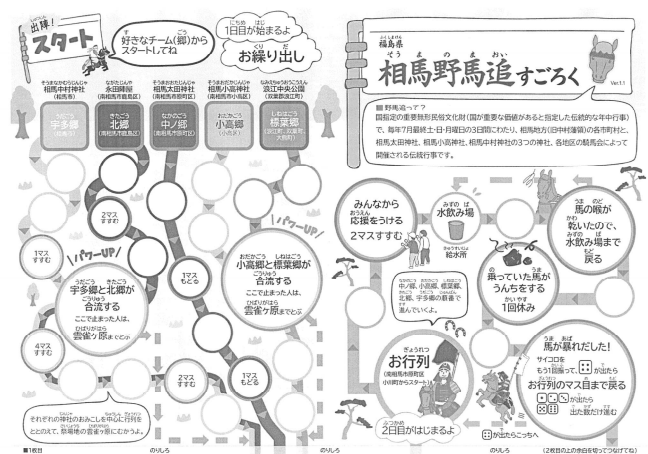
相馬野馬追すごろく公開（南相馬市博物館）

南相馬市博物館は、相双地方の国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」のすごろくをつくり、市のホームページに公開しました。新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出禁止・自粛の際に、自宅で楽しく過ごしてもらおうと企画し、学芸員の方々が1ヶ月かけて作成しました。好きな郷を選んで出陣し、甲冑競馬や神旗争奪戦野馬懸などの行事に出場しながら、野馬追の魅力と歴史に触れることができる内容になっています。

皆さんも是非ホームページをごらんのうち、楽しんでみてください。

『福島県相馬野馬追すごろく』

https://www.city.minamisoma.lg.jp/portal/culture/museum/stay_home_museum/11895.html



広野町・榎葉町 移動図書館「あづま号」巡回



広野町・榎葉町に巡回した県立図書館の移動図書館「あづま号」の図書の搬出入、本の貸し出しのお手伝いをさせていただきました。

町民への一般貸出だけでなく、町の図書館の充実に寄与しています。巡回する本の選定はもちろん、探している本が見つからない時は、後日郵送してくださるなど、読書活動推進のため様々な工夫や努力をされています。

川内村公民館訪問 6月17日(水)

新型コロナウイルスにかかわる事業の延期や中止、計画の変更、また感染防止対応等でお忙しい中ではありましたが、川内村の公民館に訪問させていただきました。

公民館独自の事業は少ないものの、川内村として、多様な世代に対しての事業の企画や実践は素晴らしいものでした。今後も村民のニーズを取り入れながら村民の豊かな生活のために継続的に取り組むことができるよう努めていきたいという熱い思いをお聞きすることができました。訪問にあわせて、臨時休業中も子どもたちを見守ってくださっていた放課後子ども教室や建設中の義務教育学校、現在小中学生と一緒に学校生活を送っている川内中学校なども訪問させていただき、村が一体となって社会教育・学校教育を推進している様子を見せさせていただき、充実した訪問となりました。

第1回地域家庭教育推進相双ブロック会議

6月26日(金)に南相馬合同庁舎において、鈴木 庸裕 様(日本福祉大学子ども発達学部教授 福島大学名誉教授)を座長に、学校・PTA関係、放課後子ども教室、家庭教育応援企業、特定非営利法人、行政関係と地域教育に携わる23名の皆様をお招きして、第1回地域家庭教育推進相双ブロック会議を開催しました。

この事業は、「相双域内の社会教育関係者やPTA関係者等による家庭教育の推進や地域教育力の向上を図る」ことをねらいとしております。協議では、「相双地域の子どもを取り巻く状況及び家庭教育の推進について」、「相双ブロック会議としての取組について」といった視点で、特に『新型コロナウイルス感染に伴う臨時休業中の家庭教育及び今日的課題』について、それぞれの現状や課題について御意見をいただきました。



<協議から>

- 臨時休業によって、メディア利用における課題がより明確になった。また、家庭教育をしっかりと行う家庭とそうでない家庭の2極化がさらに進行しているように感じる。こうした状況の中、学校と行政、そして地域がしっかりと連携して家庭教育を進めていく必要がある。

<座長より>

- どんな場面や状況でも、どうしてそう思ったか、子どもの声をしっかりと聞くことが大切である。オンラインでも授業が成立したり、お互いの思いを伝えられたりするのは、日頃のつながりがあるからこそである。日々の関わり、つながりが大切な基盤になってくる。今後も「3つの提言」を継続して家庭教育の推進に取り組んでいきたい。

それぞれの立場から積極的に情報発信し、取組や成果、新たな課題について第2回ブロック会議で協議していきたい。